平成27年度第１回研修会

#  　　　**遊行の語り部～伝説に託された人麿への夢～**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　益田市柿本人麿公顕彰会会員　　**永　田　賢　治**

**１**　**はじめに～自己紹介と、研修の場で話す動機**

　　多様な視点でのとらえ方や思いを、会員が自由に話せる場のきっかけになればという気持ち。専門的立場（歴史的・学問的研究）でなく、だれもが気楽に話せる研修会。

**２　「人丸さん」と八朔祭り**

　　幼少時、祖父に連れて行ってもらったときの印象。祖父から聞いたこと。農業・産業

　の神として庶民に敬愛信仰される歌聖の存在の不思議さ。

**３　民俗学との出会い～折口学と日本文芸・芸能史**

　●　「ウタ（歌）」の呪術性と「言霊」と「鎮魂」。

　●　「マレビト」（稀人、訪れ人）と巡遊伶人（楽人）と芸能。

**４　石見の伝説と人麿**

**●**関連著書からの学び～矢富熊一郎・厳夫先生の著書に、深い感銘を受けた。

人麿の正体は正史に記録がなく、全くの謎である。だから、その存在や人生は、様々に自由なとらえ方ができる。

　●　三つの疑問～➀なぜ、晩年になって石見にやって来て、石見で死んだのか。

②なぜ、その正体について正史に記録がないのか。

③なぜ、歌人である人麿が神（聖）となったのか。

　●　人麿の生誕と終焉をめぐる伝説～戸田柿本神社・高津柿本神社

　●　「水底の歌」（梅原　猛）から学んだ、三つの疑問を解くヒント。

　　➀　時の権力者（藤原不比等）との対立関係により、流人として石見に追いやられ、河口近くの鴨山で悲運（非業）の死を遂げた。

　　②　権力者がつくらせた歴史書（「古事記」「日本書紀」）に、都合の悪い人物の事実を記録させるはずはない。

　　③　人が神に祀られるのは、政治的犠牲者の鎮魂のためである。優れた才能の持ち主であること、悲運（非業）の死を遂げた人物であるという二つの条件が必要である。

**５　「柿本人麿」という存在への多様な視点**

　●　「いろは歌の謎」（篠原央憲）、「猿丸幻視行」（井沢元彦）の、謎解きの面白さ。

　　「いろは歌」は、処刑される人麿の思いを巧妙に歌に詠みこんだ暗号文。正史に記述

された「柿本佐留（猨）」を猿丸太夫＝柿本人麿として、猿丸伝説の謎を追う。

　●　民俗学（折口信夫）の視点～語り部としての柿本人麿

　　「柿本」（「垣之本」）氏は、呪言（声によって外敵や邪鬼から守る）をもって霊魂を鎮める「語り部」の家柄。「歌垣」（歌や音楽による宴会）に携わり、漂泊（遊行）して呪術的行為や鎮魂を専らとする。人麿も、その巡遊伶人（楽人）であったろう。

　●　オペラ「ヒト・マル」との出会いによる自由な視点

　　演出家（台本作家）、加藤　直さんのとらえ方（台本の言葉から）。

　　　「このオペラ（歌劇）の大きなモチーフの一つに、『脱出の夢』を置いてみようと思う訳です。人は凡そ誰でも『此処』から脱出したいと願うものです。自分がいる町や国から。自分自身から。どこまでもついてまわる『今』という時間から。時には甘い過去の思い出や青春の苦い記憶、ノスタルジーや傷口から。だが『脱出』は容易ではありません。こうも言えます。人は『今　此処』から『いつか　どこか』へ連れ出してくれる他の誰か（『他者』）を待っている。その他者はかつて『まれびと』とか『ほかいびと』或いは『遊部』とも呼ばれ、此処と彼方、見えるものと見えないもの、現在と過去や未来、理解できるものとできないもの、さらに言葉と音楽等々の狭間『境界』を越えてやって来ました。彼らは物や霊（もの）を憑依させた漂泊の『芸能の民』ともいえるでしょう。」

　　　「『サル』は平安時代の芸能『猿楽』の猿、つまり『戯る』で、滑稽な物真似や言葉芸を中心にしたワザヲキ（俳優）を務めたそう。そして『古事記（ふることぶみ）』に猿田彦・猿女公（俳優の神であり巷の声とも言う）の伝承があるように、猿が歌ったウタこそ、歌垣に歌われたウタであったとも。また、猿は、人間と神の間にあり、ウタは、人と神を結ぶ言葉であったとも言う。」

　　　「柿本猿―ヒトマロは一人ではなく、同時に幾人ものサルたちが時を空間を越えて、『語り部・遊部』柿本族によって『ヒトマル伝説』を語りウタい、今に至っているのではないか、とボクは考えるのです。鎌倉時代に演劇化した猿楽は、『能・狂言』となったのですが、一方、巷を旅した『芸の民』も柿本一族であると想像を逞しくすることが、このオペラを書く動機の一つでもあります。」

**６　伝説に託された「人麿」への夢**

●　生誕伝説～人麿は「若子」とも言われる。「人生まる」として、日常の現実からの「脱

出の夢」、時空を超えて生まれ変わる再生への願いが託されたもの。

●　終焉伝説～「宮廷歌人」から追放され（脱出し）、石見の自然と人を愛し無念の死を

　遂げた、「語り部、人麿」への哀悼と鎮魂の願いが託されたもの。

●　火難・病難防除・水神伝説～河口・高津沖の鴨山で死んだという人麿の魂の再生と、

人々の生活の安全への願いが託されたもの。

　●　農業・産業神伝説～厳しい生活の現実を生きる精神的な支えや願いが託されたもの。

　　鉱山や製鉄技術を司る渡来系の一族だったという興味深い説もある〔『職業人としての柿本人麻呂』（土方賀陽）〕。

　●　人麿伝説を語り伝えた人々の夢～現実からの脱出の願い（非現実世界・異空間）へ

の憧れ）と、権力者による政治的現実（時代の流れ）への抗いの思い。時空を超えて

再生する生命（見えないもの・不可解なもの・混沌としたもの）への畏敬の念。

**６　「人麿」という存在に向き合う**

　●　「ハーメルンの笛吹き男」（ドイツ民話）のような、異空間へ誘う存在。

　●　「歌聖」としてだけでなく、多様な視点で人麿の存在の可能性を見つけていく。

　●　益田に伝わる伝説を大切にしながら、多様なとらえ方を受け入れ、自分にとっての「人麿」を発見していきたい。

　●　益田の地が全国の人麿伝説とつながり、「人麿」への夢や自分の思いを語り合う発信の場にしていけたらいいと思う。